

## 第1課 紛争してはならない I コリ1:18-31)

十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」知者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の議論家はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことは愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。(18-21)

「紛争を防ぐ十字架のことは」



紛争をするということは、両方に分かれて争うことです。

互いに争うことは、何かについて正しい、正しくないという違いがあることであり、

正しさの違いがあることは、何かは「善」であり、何かは「悪」であると判断することです。

これが、善悪の知識の木の果実を取って食べた人間の「罪の性質」です。

神様はすべてを見て「良い」と創造されました。それは造られたすべてが「正しい」ということです。しかし、自らが神様となり、善悪の判断の主体者として生きようとしたアダムとエバが善悪の木の果実を食べて、自分たちが裸であることを恥ずかしく思い、神様の御顔を避けて隠れます。ご覧になって非常に良いとされた神様に正面から敵対したのです。



「私は裸なのが恥ずかしい」ということです。「このように造られたのが嫌だ」ということです。その背後に誰がいたのでしょうか？サタン、悪魔がいます。

ヘブライ語でサタン (satan) またはサタナス (satanas) と書き、ギリシャ語でディアボロス (diabolos) と書くこの名前は、「敵対者」、「告発者」、「間を分ける者」などの意味を持っています。つまり、神様と人の間を分ける役をしたのです。それだけでなく、今も目に見えないように霊的に存在しているサタンは、国と国、民族と民族、人と人の間を離して紛争をもたらしています。

このように、すべての<sup>かんけい ふんそう ふせ</sup>関係の紛争を防ぎ、その<sup>ふんそう こんほんげんいん</sup>紛争の根本原因であるサタンの<sup>けんせい くず かみさま ちから</sup>権勢を崩す神様の力が十字架であることを今日の本文で記録しています。



<sup>かんれん</sup>関連する<sup>せいく</sup>聖句をいくつか見てみましょう。

## Ⅱ コリ5:18-20

18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、<sup>わたし</sup>私たちを<sup>じぶん</sup>ご自分と<sup>わかい</sup>和解させ、また<sup>わかい つと</sup>和解の務めを<sup>わたし</sup>私たちに<sup>あた</sup>与えてくださいました。

19 すなわち、神は、キリストにあって、この世を<sup>じぶん</sup>ご自分と<sup>わかい</sup>和解させ、<sup>いはん こうい</sup>違反行為の責めを<sup>ひとびと</sup>人々に<sup>お</sup>負わせないで、<sup>わかい</sup>和解の<sup>ことば</sup>ことを<sup>わたし</sup>私たちに<sup>ゆだね</sup>られたのです。

20 こういうわけで、<sup>わたし</sup>私たちはキリストの<sup>しせつ</sup>使節なのです。ちょうど神が<sup>わたし</sup>私たちを通して<sup>とお こんがん</sup>懇願しておられるようです。<sup>わたし</sup>私たちは、キリストに<sup>か</sup>代わって、あなたがたに<sup>ねが</sup>願います。神の<sup>わかい</sup>和解を受け入れなさい。

## エペソ2:13-16

13 しかし、<sup>いぜん とお はな</sup>以前は遠く離れていたあなたがたも、<sup>いま</sup>今ではキリスト・イエスの<sup>なか</sup>中にあることにより、キリストの<sup>ち</sup>血によって<sup>ちか もの</sup>近い者とされたのです。

14 キリストこそ<sup>わたし</sup>私たちの<sup>へいわ</sup>平和であり、<sup>ふた</sup>二つのものを<sup>ひと</sup>一つにし、<sup>へだ</sup>隔ての<sup>かべ</sup>壁を<sup>う</sup>打ちこわし、

15 <sup>じぶん</sup>ご自分の<sup>にく</sup>肉において、<sup>てきい はいき</sup>敵意を<sup>かた</sup>廃棄された方です。<sup>てきい</sup>敵意とは、<sup>きてい</sup>さまざまの<sup>な</sup>規定から<sup>た</sup>成り立っている<sup>いまし</sup>戒めの<sup>りっぽう</sup>律法なのです。このことは、<sup>ふた</sup>二つのものを<sup>じしん</sup>ご自身において<sup>あた</sup>新しい<sup>ひと</sup>ひとりの<sup>つく</sup>人に<sup>あ</sup>造り上げて、<sup>へいわ</sup>平和を<sup>じつげん</sup>実現するためであり、

16 また、<sup>りょうしゃ</sup>両者を<sup>ひと</sup>一つの<sup>じゅうじか</sup>からだとして、<sup>かみ</sup>十字架によって神と<sup>わかい</sup>和解させるためなのです。<sup>てきい</sup>敵意は<sup>じゅうじか</sup>十字架によって<sup>ほうむ</sup>葬り<sup>さ</sup>去られました。

## コロサイ1:20-22

20 その<sup>じゅうじか</sup>十字架の<sup>ち</sup>血によって<sup>へいわ</sup>平和をつくり、<sup>み こ</sup>御子によって<sup>ばんぶつ</sup>万物を、<sup>じぶん</sup>ご自分と<sup>わかい</sup>和解させてくださったからです。<sup>ち</sup>地にあるものも<sup>てん</sup>天にあるものも、<sup>み こ</sup>ただ御子によって<sup>わかい</sup>和解させてくださったのです。

21 あなたがたも、かつては神を<sup>かみ</sup>離れ、<sup>こころ</sup>心において<sup>てき</sup>敵となつて、<sup>わる おこ</sup>悪い行ないの<sup>なか</sup>中であつたのですが、

22 <sup>いま</sup>今は神は、<sup>み こ</sup>御子の<sup>にく</sup>肉の<sup>し</sup>からだにおいて、しかもその<sup>し</sup>死によって、あなたがたを<sup>じぶん</sup>ご自分と<sup>わかい</sup>和解させてくださいました。それはあなたがたを、<sup>きよ</sup>聖く、<sup>きず</sup>傷なく、<sup>ひなん</sup>非難されるところのない<sup>もの</sup>者として<sup>みまえ</sup>御前に<sup>た</sup>立たせてくださるためでした。